

家畜衛生情報

沖縄県で豚流行性下痢が発生しました

発生日：平成25年9月2日から4日

発生農場：491頭飼養 繁殖養豚場

(種豚6頭、母豚80頭、哺乳豚155頭、子豚250頭)

発生頭数：哺乳豚155頭(うち約75頭死亡)

<発生状況>

9月2日 嘔吐、下痢を呈する母豚が2頭発生

～ その後、哺乳豚のみで嘔吐、黄色下痢が発生

9月4日 母豚の半数、種豚2頭が食欲不振

9月16日 これまでに哺乳豚約50頭が死亡

9月17日 家畜保健衛生所へ通報、立入検査、病性鑑定を実施

10月1日 病性鑑定の結果、豚流行性下痢と診断

対応：消毒(車両、畜舎、分娩豚房毎の手指消毒)の実施

母豚へのワクチン接種実施

飼養衛生管理基準の遵守の徹底

その他：感染経路等の疫学調査を実施

周辺農場・関連農場には異常なし

本発生事例のウイルス株は、2006年以降にアジア諸国及び2013年アメリカで流行している株と近縁である。

家畜保健衛生所	電話番号	家畜保健衛生所	電話番号
佐久	0267-62-4123	飯田	0265-53-0439
上田支所	0268-23-1630	松本	0263-47-3223
伊那	0265-72-2782	長野	026-226-0923
県庁園芸畜産課	026-235-7232		

ご相談・お問い合わせは
こちらへ

豚流行性下痢とは？

- 豚・いのししが感染し、嘔吐や黄色水溶性下痢を示す急性のウイルス性疾患です。
- 哺乳豚が感染すると、脱水により急性経過をとり死亡率が高い疾病です。
- ウイルスは糞便中に排出され、経口や経鼻感染で伝播します。
- 家畜伝染病予防法において、届出伝染病に指定されています。

臨床症状は？

- 食欲不振、元気消失、水溶性下痢及び嘔吐
- 10日齢以下の哺乳豚では、脱水によりほぼ100%の死亡率
- 育成豚では、比較的軽症な下痢にとどまり、死亡率も低い
- 母豚では、下痢、泌乳量が減少または停止

発生状況は？

- 長野県内でこれまで発生はありません。
＜国内＞
- 平成10年 北海道、三重県で発生（3農場 2,693頭）
- 平成11年 三重県で発生（2農場 812頭）
- 平成13年 鹿児島県で発生（2農場 2,218頭）
- 平成18年 香川県で発生（1農場 3頭）

予防方法は？

- 農場へウイルスを持ち込まないような衛生管理の徹底
- 汚染農場からの豚の導入を中止
- 汚染農場では、分娩前の母豚にワクチンを接種
（母豚にワクチン接種を行うことで、乳汁免疫を誘導）
- 汚染農場では、豚舎内の洗浄、消毒、乾燥を繰り返し、清浄化に努める